

キララ新聞

Vol. 50
2012年
1月20日

発行 キララ新聞社 山梨県北杜市白州町横手2259 白州郷牧場内
TEL 0551-35-0131 FAX 0551-35-0132

発行責任者・秋山眞兄 編集・内藤光

○キララ冬の学校2012が開催されました。
まずはみんなで甲斐駒神社に初詣に行きました。
(1月4日)



●夜は高橋先生による講座、
「電気の歴史」。
電気と琥珀の意外な関係に
びっくり。(1月4日)



○キララの一日は、
卵とりからはじまります。



○お正月といえはもちつき。(1月5日)



●みんなで夕食づくり。

カレーライスを作りました。(1月4日)



○生命を頂いている、ということを知ってもらったための鶏さばき。生きた鶏をしめるところからはじまります。(1月5日)



○今年のはじめての種まき。サニーレタスの種をまきました。(1月5日)



○味噌を仕込みました。ペースト状にした大豆を樽に叩きつけているところです。(1月6日)



○種まく人、ではなく玉ねぎの畑に肥料となる鶏糞をまいているところです。(1月6日)



●白州郷牧場が実践している有畜複合型農業について、若杉さんが話してくれました。キララでみんなが触れた鶏、野菜、微生物、そして人も全てつながっていることをわかりやすく説明してくれました。(1月5日)

昨年の夏からたびたび白州郷牧場にお手伝いに来てくれている大学生の加古さんに、白州で感じたことを綴ってもらいました。

白州で感じたこと

加古 菜甫子

去年の夏、私は初めて白州郷牧場で過ごしました。荷物をつめて出かけるときは緊張と不安でいっぱいでしたが、なんだかとても自然体な白州のみなさんと過ごすうちに、かたくなっていた心が少しずつほぐれていくようでした。野菜の収穫や定植、芽かきをしたり、堆肥をまいたり、鶏舎に入って採卵したり、見て聞いて真似ながら作業をしました。体をいっぱい使って働けばおなかも減るし、くたびれるから、ご飯をおいしく食べて、夜はぐっすり眠ります。そんなふうに毎日が気持ちよく、くるくるとまわっていきました。夏が終わってからも私の頭の中は白州の景色や働くみんなの姿、元気な野菜や鶏たち、それに子供たちの声でいっぱいでした。それからときどき白州におじゃましています。

今回、冬の学校では、お餅つきや鶏さばき、味噌づくりなどを体験しました。鶏さばきは強く印象に残りました。毎日鶏のお世話をしている若杉さんの口から、みんなはお肉食べてるよね、食べてるってことはどこかでこうして命を奪っているということなんだよ、命をいただいているんだよ、と言われると、とても重みがありました。鶏の頸動脈を切り、逆さに吊るして血を抜きます。誰かやってみる？と聞かれたけれど子供たちは手をあげません。私も「やる！」とは言えませんでした。楽しい仕事ではありません。だけど、食べるということはこういうことなんだと直視した気持ちでした。白州へ来て、毎朝卵を食べて、それから採卵へ行く生活をしてから動物をより近く感じるようになりました。もともと動物は好きなのですが、その感情とは少し違う「好き」の気持ちです。ただかわいだけじゃなくて、いただきますの気持ちをもう少し丁寧にしたような、ありがたうの気持ちの底の方からわいてきて、大事に思えるのです。子供たちはどんなことを感じているのかなと、横で見守ります。きっと大きくなって心に残る体験だったのではないかなと思いました。

夜、子供たちと一緒に白州郷牧場の有畜複合農業のお勉強をして、次の日畑に鶏糞をまきに行きました。畑で育った野菜を人が食べ、鶏が食べ、排泄されたものがもう一度土へ帰り野菜を育てます。なんだか自分の体の中身と野菜や鶏や土がつながって流れているように感じました。きちんと地面に足がついているような気がして、なんだか落ち着いた気持ちになります。

味噌づくりはとってもおもしろかったです。麴と塩と大豆をよいしょよいしょと体いっぱい混ぜました。最初は子供たちが混ぜているのをそばで見ていたのですが、いつの間にか自分が夢中になって混ぜていました。大豆のにおいで小さい頃、祖母と一緒に味噌を作ったことを思い出しました。なんでも作る祖母の手は私にとって魔法の手でした。私たちの生活が微生物の動かす流れの中にあることや、昔から日本人は彼らと上手にお付き合いしてきたこと、忘れたくないなと思いました。また見田さんに麴やお味噌、料理のこと、教わりたいたいなと思いました。

キララの学校の期間、私は子供たちと一緒に生活しました。子供たちと一緒にいると、笑ったり怒ったりしょんぼりしたり騒いだり、本当にいろんなことが起こります。年上の子が年下の子のことをよく気にしてくれたり、子供どうしで助け合いながら過ごしているのを、えらいなあと感心しながら見ています。子供たちはとってもたくましく元気いっぱいです。不安がりやで縮こまりがちな私を外へ外へ引っぱり出してくれて少したえられたような気がします。子供たちに接しているといろんな自分を見つけてびっくりすることもあります。幼い気持ち、お母さんみたいな気持ち、男っぽさや女っぽさ、自分の中のいろんな面が子供たちに映って動いているのを感じます。伸び盛りの子供たちに負けないように、私もこれから少しずつ成長していきたいと思っています。

新年に思う

秋山 眞兄

もう直ぐ3・11がやってきます。この1年をどう振り返り、今年をどう過ごしていくかを考えなくてはなりません。

南相馬市の福島第1原発から24 km離れた保育園の園長さんから、いろいろな話を聞きました。その中で彼女は「逃げられる人たちはそれでよいが、逃げられ

このことを心に留めて、今年のキララを進めていければと思っています

内藤 光

無傷であることの疚しさを感じつつ、かといって今ある生活を放棄するわけに

《場所》の安全を維持するための仕事を、黙々とこなしていくことが大事なのではないでしょうか。

今年の抱負

岸直樹

編集後記

内藤

かった。わかる人にはなぜかわかる。